

菅野正純

日本労働者協同組合
連合会 理事長

この10月、ローマのレガ本部、エミリア・ロマーニャ州の自治体、州レガ本部、協同組合を中心に、23年ぶりでイタリア協同組合調査に参加することができた。インターネットでかなりの情報を入手できる時代になったとはいえ、現地に赴いて初めて得られる「人」と「場」の味わいは格別だ。

ましてや、日本の労働者協同組合自身が、コミュニティ・ケアに取り組み、「協同労働」を明確にし、地域再生・就労創出の「社会的協同」と「新しい公共」を探る中での今回の旅だ。イタリアの人々からの深い共感の中で、通り一遍では得られない詳しいお話しと資料を提供していただいた。詳細は、これから順次報告することとして、調査の内容とそこから得られた印象を述べさせていただこう。

第1には、公共サービスの「民営化」に果たす協同組合の役割である。

レガ本部では、生まれたばかりのレガ社会的協同組合連合会のコスタンツァ・ファネッリ理事長が出席して下さり、エミリア・ロマーニャ州では、オリアンナ・モンティさんから、地域福祉の新動向を説明いただいた。福祉サービスの分権化・民営化を、エミリア・ロマーニャ州では、行政と社会的協同組合、NPO（利用者・市民）による「地域福祉計画」づくりからその実行までの協働で実施しようとしている。ワーカーの資格と賃金の「全国労働協約」による確定と、労働者・利用者・市民の参加と協議によるこの計画づくりによって、公共サービスの安上がり競争と営利化・市場化を超える、「ウェルフェアミックス」の展望が切り開かれつつある。

第2には、社会的協同組合の力強い発展と、その深い質である。

モデナのB型社会的協同組合「アリアンテ（グライダーの意）」を知る機会を得た。ここでは、緑化や清掃の労働者協同組合的な仕事を、精神障害の人々と健常者の職員が共に担いながら、さらに困難な人々のリハビリと就労を支援している。

知的発達障害の子どもたち・若者たちの就労支援協同組合「コーパップス」の山頂のレストランでは、週末に地域の人々を迎える準備が進められているさ中だった。麓の通所生活施設兼農産物直販所

では、にぎやかな昼食を共にさせていただきました。

30年前に高齢者の在宅サービスから始まった、CADIAI協同組合は、高齢者ケア全般と、障害者、年少者への福祉サービスへ、あらゆるコミュニティ・ケアに仕事を広げ、800人のワーカー集団になっている。今回、ポローニャ市との契約の下、建設協同組合、メンテナンス協同組合、給食・レストラン協同組合との協同プロジェクトで保育所の建設・運営(25年間)を引き受けるという。

社会的協同組合は、自らの生産物を「関係財」(人と人の関係を豊かにしその中で発展していく財)と規定し、それゆえ、経営の確立発展と共に、人とコミュニティと労働を豊かにすることをどれだけ達成できたかを、「社会的バランスシート」で示す。市場原理主義とは異なる、人間の経済の姿を、そこに見ることができる。

第3に、イタリアの「協同組合運動」「協同組合システム」全体が、経済・社会の変革者として本格的に登場していることだ。

ICAのバルベリーニ会長は、エミリア・ロマーニャ州レガ本部のオフィスに私たちを迎え入れ、新著『発展と連帯』を贈呈していただいた。これによれば、労働の不安定化や新しい貧困化という厳しい時代の中で、イタリアの協同組合は、雇用や消費生活、住宅など、人々と地域の必要を、当事者の協同と社会連帯の中で実現し、事業高・組合員・就労者を伸ばし続けている。これを資金的に支えているのが、「不分割積立金」から、「コープファンド」へと広がる、世代を超えた連帯の基金である。後者は、消費者協同組合を含むすべての協同組合が、年間の利益の3%を拠出し、協同組合と雇用の振興・創出に再投資するものだ。

会社自身がそのステークホルダーの意志を離れて、売買と投機の対象となる時代に、協同組合こそが人間の経済を創造する21世紀の企業形態ではないか。イタリアの協同組合は、私たちにそのことを力強く訴えている。